

頂戴したご意見

全体

(中森委員)

- ・展示に漢字が多く、ルビが少ないです。
⇒ルビを増やします。
- ・小学生は展示を見ないという前提になっているように思いますが、それでよかったですか？

(箱崎委員)

- ・縦書きの漢数字が読みにくい。算用数字ではだめか。
- ・誤字があるので修正するように。(釘上鉄製品、万葉集のところの7後半など)
⇒対応します。

ホール

<背景写真>

四日市港の写真：山中委員長、中森委員、伊藤委員

日の出のイメージ：中川委員、古市委員、箱崎委員

<年表>

(山中委員長)

- ・Ⅰ期の始まりをいつにするか。Ⅰ-①期の解釈は。(1での説明にも連動)
- ・平安時代の項目について、本当に入れるべき項目がないのか。中学校の年表を用意する。
- ・ホールと1のタイトルで、「古代の役所」の言葉が重複するので、どちらかを変えてはどうか。良いタイトルがないか考えてみる。「発見」は来館者にとって重要ではないかもしれない。

(中森委員)

- ・年表の中、中学で習うメジャーな内容は太字にするなど、強弱をつけると、見やすいのではないのでしょうか？
⇒壬申の乱、東国行幸を太字にするなどメリハリをつけます。
- ・下のⅠ期～Ⅲ期の表示は、大事だと思うので、もう少し大きくした方が分かりやすいと思います。
⇒各時期の特徴を入れるなどわかりやすくなるよう検討します。

(岡田委員)

- ・古代史年表のタイトルは「久留倍官衙遺跡」関連「古代史年表」ではなく、「古代史年表」と「久留倍官衙遺跡」ではないか。
⇒修正します。

- ・天武13年(684)の白鳳大地震をいれたらどうか。
- ・縄生廃寺や伊勢国分寺の倒壊記事を入れたらどうか。

(中森委員)

- ・「久留倍官衙遺跡」「全国でも稀な東向き」が、目立たないのが気になりました
 - ・「和歌にもあるように歴史上の舞台となった可能性があります」などと、右側の文章に和歌との関連も書いてあると、左側の和歌に気持ちがつながり易いと思います。
- ⇒展示室で説明しておりますが、いかがでしょうか。

(箱崎委員)

- ・『続日本紀』だけ読み下しになっているので、『日本書紀』『万葉集』と同様に現代語訳にした方がいい。
- ⇒修正します。

1 発掘された古代の役所

(山中委員長)

- ・久留倍官衙遺跡の指定地外の久留倍遺跡の出土品も、「久留倍官衙遺跡」出土で良い。
- ⇒指示通りいたします。
- ・異形円面硯の墨書は鏡などを使って見せなくても良い。
- ⇒見せません。
- ・土器の説明は、ただ展示するだけでなく、出土場所・出土状況にもとづいてストーリーを理解できるように工夫してもらいたい。

例1) 緑釉陶器唾壺・土錘などは倉庫に伴う祭祀の存在などを考えられるのではないかと。土錘は祭祀に関係しないか。倉庫での祭祀など。

例2) 埋納土坑の性格を明らかにし、展示に反映させてもらいたい。施設全体の地鎮に関わるのではないかと。

⇒指示通りいたします。

(岡田委員)

- ・考古学的には7世紀末まではいける。あとは解釈。壬申の乱に関係ないと遺跡の価値が半減する。
 - ・Ⅱ期の長大建物を穎稻倉とするのはいかがか。これだけ大きな屋は倉庫ではなく、人のいるところではないか。倉とストレートに言わない方がいい。ぼかし方を考える。
- ⇒遺跡の解釈については、報告書に整理している通りです。

(中森委員)

- ・冒頭の「久留倍官衙」など、普段あまり目にしない漢字は、コーナー毎にルビをかけた方がいいと思います。
- ⇒ルビをつけます。
- ・正殿・脇殿・八脚門のイラスト、どれが正殿でどれが八脚門なのか分かりにくかつ

たです。

⇒各建物にキャプションが付くように指示済みです。

・Ⅰ期～Ⅱ期～Ⅲ期と同じ場所を図面で示していることがすぐにわかるようにしてもらおうと、その場所が違う用途で使われたことが直感で分かると思います（子供に見せたとき、同じ場所であることをすぐに気付かなかったため）。

⇒検討いたします。

(箱崎委員)

・長大な建物のイラストが、上から見ているためあまり長大に見えない。長大に見えるような工夫を。

⇒イラストを変更することは困難ですが、人を入れるなどして長大に見えるよう工夫します。

2 朝明郡と役所の仕事

(山中委員長)

・人々と税のイラストについて。製塩の仕方は意見を聞いて修正する。

・郡司の仕事のイラストについて。

①墨が四角い墨なので、舟形墨にする。

②題箋軸を巻物に差し、2～3本重ねる。

③木杵を置いておき、屋外であることを示す。

④柱は丸柱で。

⑤水滴がよくわからないものになっているので修正する。

⇒修正します。(③については、下記の箱崎委員の指摘もあり書かないかもしれません。)

・展示品について

①下江平遺跡の「倭家」「五十戸口」墨書土器は、最低写真でも入れて欲しい。

②木簡レプリカは自分で作った方が良い。

③刀子は鉄錆の塊にしか見えずわかりにくいので、レプリカのみで良い。

⇒修正します。

・荷札木簡の移動のイラストには実際の移動経路を入れ、鈴鹿関、東海道の文言くらい入れる。

⇒修正します。

(中川委員)

・木簡写真の説明は「褥多里」（平安時代には「額田里」と書かれた地と考えられています）から運ばれた…のように書いて「額田里」にヌカタノサトとフリガナをつけたらどうでしょうか。

⇒修正しました。

(中森委員)

・古代の朝明郡が、現在の四日市と同じ場所にあったというイメージができると、興味を持って、面白く見てもらえると思います。海岸線が変わっていることなどもわかると面白いと思います。

⇒展示で工夫します。

・上右の緑のイラストよりも、倭名類聚抄の左の図に興味を湧きました。
・左側部分、木簡の説明が書いていただいておりますが、木簡とは何？ というところは必要ではないでしょうか？

⇒木簡の種類のところの説明を加えます。

(箱崎委員)

・左上の郡司の仕事のイラストが、建物の構造がよくわからない。修正指示を送るので修正してもらいたい。修正の際は、右上は壁でいいのでは。

⇒指示通り修正します。

3 壬申の乱と聖武天皇の東国行幸

(山中委員長)

・系図は天皇は区別できるように。また、女性も区別できるように。

⇒印をつけるなどして区別できるようにします。

・輿は3人で良い。

⇒3人のイラストを入れます。

・行幸工程図について

①鈴鹿関を入れる。

②鈴鹿郡家→河曲郡家に修正

③山前のところの卍が崇福寺としたら位置をもう少し上に。

④山前のところの関印？は何か？

⑤山前はここで良いか。

⑥国境を入れる。

⑦木曾三川は今のルートでいいので入れる。

⑧地図の摂津など西側はいらないので、東側に広げ尾張を入れる。

⑨不破郡家と野上行宮の間の→が頭の三角だけになっているので、矢印を伸ばすか、両者をくっつける。今のままではわかりにくい。

⑩吉野宮を○に、飛鳥浄御原宮を□に変える。

⇒修正します。

(中森委員)

・色がここまで黒くなくてもいいのでは？暗い感じがします。

⇒プリンターの性能もあり見づらい部分がありますが、工夫します。

- ・皇統関係図・・・詳しいのですが、私には難しく感じました。
「大海人皇子（天智天皇の弟）VS 大友皇子（天智天皇の子）」と、バーンと書いてしまう方が叔父さんと甥っ子で戦争したんだ・・・と、思えます。
- ・説明文に「万葉集」が出てきます。後の展示で説明はありますが、ここで、「万葉集って何？」と思う子（中学1年生）が、あるかもしれません。
⇒それぞれの項目で説明しており、それに倣いたいと思います。
- ・歌の下の部分、白い文字が読みにくい印象を受けました。
⇒プリンターの性能の都合がありますが、読みにくくならないように工夫します。

映像について

（山中委員長）

- ・バックを写真にした方がわかりやすいのではないか。
- ・久留倍の説明である映像 A にも遺物を入れてもらいたい。
- ・映像 A・B 以外にも、今まで講演などで使用したパワーポイントも流せるなら流す。

<関連施設のリーフレット置場>

- ・追加してもらいたい施設。
 - ①河口頓宮に関わり白山郷土資料館？
 - ②和遅野の個人で作っているパンフレット
 - ③大山崎の資料館
 - ④栗東市歴史博物館？
 - ⑤野洲の銅鐸博物館

キャラクターの使用

（山中委員長）

- ・先生方のご意見を聞く。特に市民委員である中森委員に。

（中川委員）

- ・候補のキャラクターはみな久留倍に結び付きにくく、またインパクトも強くないので、あえてキャラクターを使う必要はなく、普通のイラストで良いと思います。

（中森委員）

- ・キャラクターを使用してもらう方が親しみやすいので、是非使用して、説明などはキャラクター同士で掛け合いをさせるなどしてもらいたいです。

【久留倍遺跡 解説】

発見、古代の役所

一九九九年（平成十一年）年から始まった発掘調査で、約一三〇〇年前の、全国でもめずらしい東向きの役所の跡が見つかりました。そこには、規模の大きな建物や倉庫などが整然と立ち並んでおり、大きく三回の変遷をたどることもわかりました。このことから二〇〇六年（平成十八）年、古代「伊勢国朝明郡」の郡衙（郡家）である可能性が高いとして、「久留倍官衙遺跡」の名称で国の史跡に指定されました。古代の朝明郡は、六七二年（天武天皇元年）年の壬申の乱や七四〇年（天平十二年）の聖武天皇の東国行幸などに際し、古代史の重要な舞台として登場します。遺跡との関連が大いに注目できます。

ので、

1. 発掘された古代の役所

久留倍官衙遺跡の建物群は、掘立柱建物の柱穴の^(重複)かさなりから大きく三時期に分けることができます。Ⅰ期 ~~七世紀後～八世紀前半~~ では東向きの正殿（郡衙政庁か）が左右に脇殿を配して立ち、それらを区画する塀には東門が開きます。またⅡ期 ~~八世紀中～後半~~ には長くて大きな建物を中心とする施設群が、Ⅲ期 ~~六世紀末～九世紀~~ では溝で囲まれた中に高床の倉庫群が、それぞれ立ち並びます。時期により郡衙政庁（Ⅰ期）、行幸関連の施設（Ⅱ期）、郡衙の正倉院（Ⅲ期）と、性格を変えたようです。

また久留倍官衙遺跡の建物群には東を向く特徴があるので、Ⅰ期の建物群を都と地方を結ぶ官道（久留倍の場合は東海道）沿いに置かれた「駅家」ではないかとする考えもあります。

皇統関係図の中（右端付近） 別箇所の再掲図にも同じ間違いあり

蘇我倉田山石川麻呂（誤） → 蘇我倉山田石川麻呂（正）

壬申の乱・聖武天皇東国行幸の行程

図中の「地名」（特に難解なモノ）にはルビをつける

2. 朝明郡と役所の仕事

この時代の日本は、天皇を中心とする国づくりが行われていました。七世紀の中ごろから、全国的に地方組織の整備が進められました。七〇一年（大宝元年）年に完成した大宝律令には、地方の行政区画を国一郡一里（のちに郷）（現在の県一市一町に相当）と定め、拠点に国衙（＝国府）、郡衙などの役所を置きました。

現在の四日市市域は、伊勢国の朝明郡と三重郡とにあたります。

3. 壬申の乱と聖武天皇の東国行幸

古代の朝明郡は、「壬申の乱」や「聖武天皇の東国行幸」にゆかりの地です。また、『万葉集』には行幸の際に詠まれた歌が収められています。このように古代史の舞台とも関係する久留倍官衙遺跡は、古代史や考古学のみならず『万葉集』の研究でも大いに注目されます。

壬申の乱の勃発

『日本書紀』によると、大海人皇子（のちの天武天皇）は、兄の天智天皇が位を譲ろうというのを断り、吉野に移り住んでいました。天皇が亡くなると、大友皇子（天智天皇の子）側が軍備を調えているとの報がもたらされます。そこで大海人皇子は挙兵を覚悟します。こうして皇位継承をめぐる内乱＝壬申の乱が勃発しました。

六七二（天武天皇元）年六月二四日（太陽暦で七月二四日）、大海人皇子は妻（のちの持統天皇）とわずかな供を連れて、吉野を脱出し東国へ向かいます。戦況は一進一退を繰り返しますが、最終的には大海人皇子側の勝利となり、翌年、天武天皇として飛鳥浄御原宮で即位します。

